

統合医療のあり方に関する検討会

平成24(2012)年 3月26日

# 統合医療と漢方の役割

日本東洋医学会 前会長  
東亜医学協会 理事長



□ 千葉中央メディカルセンター和漢診療科 部長  
寺澤捷年

# 漢方と西洋医学の本質的な相違

寺澤捷年の定義

- 漢方は構造主義に基づく医療体系であり、西洋医学は要素還元主義に基づく医療体系である。
- 統合医療とは構造主義を基盤に要素還元主義をも取り込んだ医療と定義してよい。
- 構造主義とは雑多な信号を関係性の中で意味づけ、その総体的意義を見出し、体系化する方法論。
- 要素還元主義とは事象を要素に分解し、論理性・普遍性を担保しつつ、真実を解明しようとする方法論。

# 吉益東洞の 研究

日本漢方創造の思想



寺澤捷年  
Terasawa Katsutoshi

岩波書店

# 漢方方剤は構造主義によって理解される

- **桂枝湯** 桂皮・芍薬・大棗・生姜・甘草  
感染症の初期、頭痛、悪寒、発熱、脈：浮・数・弱、  
自然発汗の傾向。

**桂枝去芍薬湯** 桂枝湯－芍薬  
ホットフラッシュ、動悸、焦燥感・不安感、脈：数・弱

**桂枝加芍薬湯** 桂枝湯の芍薬を倍増  
腹痛、腸運動の失調、腹直筋緊張、脈：弱

## 柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）

### 1. 急性熱性疾患の亜急性期

上熱下寒の傾向。寒熱往来。自汗傾向。

脈：浮・弦・弱。

腹力中等度～軟。

胸脇苦満。軽度の心下痞鞭。両側腹直筋の緊張。

### 2. 諸種の慢性疾患

精神的にはやや神経過敏。上熱下寒の傾向。汗をかきやすく、暑がり、で寒がり。

消化器系の愁訴。

脈：中等度～やや弱

腹力中等度～軟。

胸脇苦満。軽度の心下痞鞭。両側腹直筋の緊張。

# 柴胡桂枝湯の臨床・基礎研究

## □ 要素還元主義的アプローチ

個々の生薬の成分分析。

取り出した単一化合物の薬効・薬理。

それらの複数の結果から柴胡桂枝湯を理解しようとする。

## □ 構造主義的アプローチ

柴胡桂枝湯を単一の薬物とみなし、その薬効を心身両面を見据えた評価基準によって客観的評価を試みる。

## □ 統合医療の視点

研究対象とする疾患・病症を選び、QOLも視野に入れた評価を行う。局面に応じて、西洋医学も組み込み、その total outcome を評価する。

# 統合医療と漢方の役割

寺澤捷年の定義

- 要素還元主義に基づく医療体系・西洋医学の限界には誰もが気づいている。
- そこで、統合医療という言葉が登場しているが、欧米諸国と日本とは異なった文化を持ち、日本は漢方という構造主義的手法を保有する点で圧倒的に有利な医療環境にある。
- この漢方の持つ構造主義的視点を活用し、西洋医学的叡智を取り込んだ統合医療の方法論を構築して行くことが重要である。